

事業活動実績報告書

施 設 名	明昭第二幼稚園
教 育 理 念	○子どもたち一人ひとりの個性・発見・発想を大切に生きる力の基礎となる丈夫な身体とやさしい心、人とのかかわる力、たくましさ育てていく。○子どもたちの主体性を大切に、一人ひとりの個性、発達に応じた遊びを中心とした援助・保育をする。

1 事業名	SDGsを取り入れた保育（考える・意識する・実践する）
2 実施期間	令和 7年 4月11日 ～ 令和 8年 3月17日

3	取組概要	（取組日） 令和7年 5月 7日 ～ 令和8年3月17日	
		（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		SDGsプログラム「せかいタッチ」を主に4歳児で行う。豊富なコンテンツの活用とオンライン交流会の日程を検討する。 9月18日にニュージーランド、11月6日にシンガポールの子どもたちとの交流会に参加し、ことば、あそび、ダンスを通して文化交流する。交流会前には、その国の文化や暮らしを紹介したクイズや体を動かしながら学ぶコンテンツを2階ホールで体験する。1月15日にはアフリカの子どもたちとの交流会に預かり保育の子どもたちが参加する。絵本や資料による理解だけでなく、実際に交流することで世界にふれる体験ができ、SDGsの目標17のパートナーシップを築く素地となった。日本だけではなく、世界と協力して問題解決にあたるために、幼児期に世界を知る貴重な体験が出来た。	
		（取組日） 令和7年 6月20日 ～ 令和8年 3月17日	
		（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		プール開きのタイミングで手洗いや水を大切に使う指導が始まった。5歳児は給食センター見学やカレーづくりを通して、食べ物を無駄にしないことを学ぶ。ものを大切にすることはゴミを増やさない、ゴミを分別しリサイクルに役立てることに繋ががり、年齢に応じて各クラスで指導した。紙芝居や絵本を利用するクラスもあった。日常を通しての指導は3月の4・5歳児の石鹸づくりにもつながった。水を無駄にしないことやものを大切に使うことは、日常生活の中で継続的に見守り、指導することで習慣として身についていき、家庭でも実行された。	
		（取組日） 令和7年 7月 8日 ～ 令和8年 3月17日	
		（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		SDGsプログラム「せかいボックス」を開始、学期に1回、世界の民族衣装、楽器、おもちゃ、絵本など文化にふれる教材が届く。職員室前に展示し、自由に子どもたちが触れられるようにする。全園児が興味や関心を持ち、世界の国々を意識し、日本との違いを知る体験ができた。4歳児は「せかいタッチ」と併用することで活動が広がる。3歳児は世界を知り、「せかいタッチ」につながるきっかけとなる。5歳児は前年までの「ちきゅうフレンズ」で知った世界の問題を思い出したり、新たに考えるきっかけとなった。	

3	取組概要	（取組日） 令和7年 9月12日 ～ 令和7年 9月12日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・移動水族館を2階ホールで実施。カメ、カニにふれ、えさをあげたり、コイにふれたり、水槽にいる魚などを見たりした。実際にふれることで命を感じる体験をする。 ・SDGsゴール14 海の豊かさを守ろうにつながる活動で海や川に住む生き物にエサをあげたり、ふれたりすることで生き物を大切にする、いたわる気持ちを育む。 4. 5歳児は飼育員から、プラスチックごみがカメなどの海の生き物を危険にさらしていること、環境破壊が及ぼす影響について話を伺い、海の豊かさを守ろうという意識を高めた。	
		（取組日） 令和7年10月24日 ～ 令和7年10月24日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・ふれあい動物園を園庭で実施。うさぎ、ハムスター、ハツカネズミ、ヒヨコ、ヤギ、ヒツジ、ポニー、ヘビ、インコなどの小動物にえさをやったり、ふれあったりする。（全園児対象） ・SDGsゴール15 陸の豊かさを守ろうにつながる活動で、小動物にやさしく触れる、関わるなどして命の大切さを知る。5歳児は動物たちの生活の場が環境破壊により失われていることを知り、環境保全の大切さを学ぶ。	
		（取組日） 令和8年 3月 4日 ～ 令和8年 3月 9日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 4・5歳児で環境リサイクル（廃食油使用）の石鹼づくりを行う。1人40gの固形をこね、好きな形に成型し、2日間乾燥させてつくる。こねた後に手を洗うと泡が出て、そのまま手洗いに利用することができた。完成後は袋に入れ、家へ持ち帰り、自分用として使用する。捨てられる油が石鹼となり、リサイクルに活かされることを知る。資源を有効に活かす、無駄にしない、SDGsにつながる精神を実体験を通して学ぶ。	
		（取組日） 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 （区HPで公開が可能な写真を添付してください） 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
		（取組日） 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 （区HPで公開が可能な写真を添付してください） 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
		（取組日） 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 （区HPで公開が可能な写真を添付してください） 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
		（取組日） 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 （区HPで公開が可能な写真を添付してください） 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
		（取組日） 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 （区HPで公開が可能な写真を添付してください） 活動内容が分かるもの 取組に関するもの

効果検証報告書（継続事業用）

施 設 名		明昭第二幼稚園				
教 育 理 念		○子どもたち一人ひとりの個性・発見・発想を大切に生きる力の基礎となる丈夫な身体とやさしい心、人とかわる力、たくましさ育てていく。○子どもたちの主体性を大切に、一人ひとりの個性、発達に応じた遊びを中心とした援助・保育をする。				

事業の区分(5領域)		幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)				
		健康 ○	人間関係 ○	環境 ◎	言葉	表現 ○

計 画 時	1 事業名	SDGsを取り入れた保育(考える・意識する・実践する)				
	2 事業概要	令和5、6年度に5歳児で取り組んできた幼稚園・保育園向けSDGsオリジナルプログラム「ちきゅうフレンズ」の応用編「せかいタッチ」(オンラインで海外交流)に4歳児を中心に年3～4回取り組む。これまで水問題を考える実践、ふれあい動物園、環境学習などSDGsにかかわる活動を行いながら、世界交流を通して多様性について学び世界を意識し、すべての人に健康と福祉を、人や国の不平等をなくそう、平和と公正をすべての人に、パートナーシップで目標を達成しようなどのSDGsの目標を考える。				
	3 対象学級(クラス名) 対象人数	満3歳児、年少2学級、年中2学級、年長3学級、全8学級 (クラス名: つぼみ、たんぼぼ、ひまわり、もも、さくら、つき、ほし、やま)				176 名
	4 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 4歳児を中心にSDGsプログラム「せかいタッチ」(株式会社シンクアロット)を実施。 ・取組に必要な人員 4歳児担任4名(3歳児4名、5歳児3名)と補助教諭2～3名。 ・パソコン、プロジェクターを使用。(オンラインでの世界交流) ・活動場所 クラスまたは2階ホール ・外部委託で園内実施 移動水族館、ふれあい動物園、環境学習(葛飾清掃局)を実施。 全園児を対象として体験を通じ、SDGsを意識し、実践につなげていく。				

事業 後	4についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・4歳児でSDGsプログラム「せかいタッチ」を実施。オンライン交流会(せかいパーティー)に2回参加、預かり保育で1回参加する。学期に1回送られてくる「せかいボックス」によりアジア、アフリカ、アメリカなどの世界の民族衣装、おもちゃ、楽器、絵本に触れ、3～5歳児で世界の文化に親しんだ。 ・パソコン、プロジェクターを使用した。接続が悪く、マイクで音声を拾うなどの工夫が必要だった。 モニター(スクリーン)が遠く、見づらい部分もあるなど、環境の整備が今後の課題である。活動は3回でホールを使用した。 ・外部委託で園内実施の移動水族館、ふれあい動物園は上手く日程に組み込み実施できたが、環境学習は日程調整がつかず、ゴミの分別や収集については絵本や紙芝居、日常の指導で学んだ。環境にやさしい石鹸づくりを4、5歳児で実施した。早期からの計画が必要だった。代替活動を実施できたことは良かった。
---------	-----------------	--

計 画 時	5 事業のねらい	・令和5、6年度取組を積み重ね、SDGsの課題を知り、問題を意識し、自分事として身近に考え、出来ることをやろうとする気持ちを育てる。(5、6年度の取組を参考に自園で展開) ・生きものとのふれあうことで命の大切さ、環境保全の重要性を理解する。 ・環境学習を通して、ゴミを出さないこと、リサイクルに利用するために分別することなど資源の大切さを学ぶ。 ・「せかいタッチ」を活用し、世界の文化にふれ(教材映像だけでなく、オンラインでの交流を通して)多様性を学ぶ。世界を意識し、SDGsの目標3、5、10、16、17も考えていけるようなきっかけや素地をつくる。 ・全園児を対象に体験を通して、SDGsを意識し、出来ることをやってみようとする気持ちを育む。
-------------	----------	--

事業 後	5についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・前年までの取り組みを活かし、日常の中で物・資源を大切に、紙のムダ使いをしないこと、水を出しっぱなしにしないこと、ゴミを散らかさないこと、片づけることなどSDGsにつながる意識、活動を促し、互いに注意しながら生活をした。 ・移動水族館、ふれあい動物園の生き物たちとのふれあい、エサやりなどを通して生き物の命の大切さや思いやる気持ちが芽生えた。丁寧に小動物を抱く、子どもたちの姿が見られた。 ・環境学習はできなかったが、日常の中でゴミを出さないことやゴミの分別を体験し、家での活動にも活かされた。毎年でもなくとも清掃局による分別体験、ゴミの話も必要であると感じた。 ・ニュージーランドとシンガポール、アフリカの子どもたちとオンライン交流した「せかいタッチ」により文化の違いや世界に目を向けるSDGsにつながる視点や意識を持つことができた。「せかいボックス」も世界を知るきっかけとなった。リサイクルを考える上で、石鹸づくりも役に立ち、物を大切に使い、石鹸(物)を使う気持ちも育まれた。 ・実施できない活動も有ったが、日常生活の出来事も意識し、やってみるとSDGsにつながる活動となることを学んだ。これからも取り組んでいきたい。
---------	-----------------	---

計画時	6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等
		・幼稚園・保育園向けSDGsプログラム「せかいタッチ」を実施。教材を通して世界の文化、生活など、人々の多様性やSDGsの課題を知り、オンラインで海外幼稚園と交流し、実体験を通して交流を図り、親しみを持つ。SDGsに必要な観点、全ての人の健康と福祉、平等・平和と公正、パートナーシップの素地を幼児期から育んでいく。4歳児を中心に活動する。交流は6月オーストラリア、7月ケニア、9月ニュージーランド、11月シンガポール、2月インド。・5. 6年度に体験した「ちきゅうフレンズ」のノウハウを生かし、園でSDGsを考える実践を行う。（水、ゴミ環境、海と陸の豊かさを守ろうなど）・全園児対象に移動水族館、ふれあい動物園、環境学習により命の大切さや環境保全の重要性を知る。
		上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点
		・積み重ね一節水、ものを大切にする、栽培や小動物とのふれあい行事や自然とのふれあいを通し、命の大切さや思いやり、自然を大切にする心を保育の中で培ってきた。 ・発展—SDGsプログラム導入により、幼稚園教育要領の「環境」中心の活動から「人間関係」に関わる規範意識、いろいろな人との関わり、交流体験ができるようになる。SDGsを考える上で大切な社会とのつながりや国際理解の芽生えが養われる体験に発展させた。日常生活や園行事をSDGsの問題に絡めて考えられるようになった。子どもたち同士で問題を考える、話し合うなどの体験も「言葉」「表現」に関連する活動に発展した。
事業後	6についての効果・検証	(継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点
		・令和5. 6年度実施のSDGsプログラムのノウハウを生かし、園独自の活動としてSDGsにつながる活動を実施していく。 ・SDGsプログラム「せかいタッチ」を採用。オンラインで実際に海外園との世界交流をする。民族衣装を着てみたり、ものにふれる、海外の方とふれあうなどの実体験をする。
		事業実績から推測される効果や改善点等
		・今年度はSDGsのための特別な活動を用意するのではなく、日常生活の中でSDGsにつながる物や資源を大切にする気持ちが育つように意識して援助して行った。水、紙を大切に使う、食べ物の残食が肥料やブタのエサになること、出来るだけ、ゴミを出さないことなどを学び、園生活に活かそうとする意識が芽生えた。家庭でも物を大切にする気持ちや水を大切に使う姿が見られた。・SDGsプログラム「せかいタッチ」「せかいボックス」を通してのオンライン交流や世界の文化に触れる体験は世界を知るきっかけとなり、SDGsについて日本だけでなく世界の問題として考える体験となった。生きものを大切にする心を育む移動水族館、ふれあい動物園も大切な活動として行った。リサイクル石鹸づくりにも挑戦し、どのような材料で出来ているのかを考えるきっかけとなった。自分でつくった石鹸を大切に使う姿も見られSDGsを考える新しい活動ができた。今後もSDGsの問題を意識し、考え、少しでも解決に役立つ、貢献できる活動を展開していきたい。日々の生活の中でSDGsの問題を意識し、考え、行動する大切さを学ぶことが出来た。
計画時	7 環境構成例	・幼稚園・保育園向SDGsプログラム「せかいタッチ」を実施。クラスまたは2階ホールで教材視聴・オンライン交流。パソコン、プロジェクターを使用。 ・「せかいタッチ」のワーク・映像を選択し実施。ワークシートを印刷し園児に配布。海外の文化や生活様式、食べ物などを知る。 ・オンラインで世界の幼稚園との遊びやダンスなどの交流を通して世界の人々に親しみを持つ。オンライン交流のオーストラリア、ケニア、ニュージーランド、シンガポール、インドの子どもたちと映像スタンプ。 ・移動水族館、ふれあい動物園、環境学習など外部委託で園庭・2階ホールで行うSDGsにかかわる体験活動。実施スタッフ。生きもの、清掃車など。全園児が体験する。 ・園で実施予定の水の体験、エコバックづくりなどSDGsにかかわる園児の体験活動に必要な材料・道具類。 ・SDGsにかかわる絵本、紙芝居、教材など。
		事業実績から推測される効果や改善点等
		事業後
		7についての効果・検証
		・SDGsプログラム「せかいタッチ」はコンテンツが豊富で、子どもたちの興味・関心に応じて利用できた。主に4歳児で活用し、帰園後のケニアの子どもたちとの交流会は預かり保育の子どもたちが参加した。交流した国について知ることが出来、質問コーナーや遊び(手遊び・ダンス)を通してふれあえた。「せかいボックス」は学期に1回郵送され、世界の衣装、楽器、遊び道具、絵本など豊富な内容で、全園児が興味深くふれることが出来、世界を知り、国際理解につなげる素地を作った。時間や日程の関係で年間数回の交流会のうち、3回のみ参加となったのが残念だった。交流のための機材環境を整えることも今後の課題である。・外部委託の移動水族館・ふれあい動物園を2階ホールと園庭で実施、生き物にふれ大切に扱うことでSDGsの目標14・15の海と陸の豊かさを守ろうという意識が育まれた。環境学習は実施できなかったが、日常保育の中でゴミについて考えた。・エコバックづくりのかわりにリサイクル石鹸づくりを4・5歳児で実施した。水を大切に使うことは日常の中で指導・実践した。絵本、紙芝居、教材も利用し、物を大切にする気持ちが育った。

計画時	8 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・世界のいろいろな人々や文化、生活様式にふれ、オンラインで世界の幼稚園の子どもたちとのふれあいを通して親しみを感じながら、違いや多様性(世界)を意識する。 ・SDGsという地球上の誰もが考えるべき課題や環境問題にふれ、みんなで身近な問題として考え、できることをやろうとする気持ちが芽生える。 ・もの(水や食べ物など)を大切にすることを「もったいない」の精神が身につく。 ・いきものとふれあいを通し、命の大切さを知り、大事に扱うことで海や陸のいきものを大切にする気持ちや環境を守ろうとする気持ちが育つ。 ・ゴミの分別などのルールの必要性に気づき、規範意識が芽生える。(環境学習)
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・「せかいタッチ」の豊富なコンテンツの中から興味・関心・理解につながる活動を選び、事前に学習し、オンラインではあるが世界の子どもたちとふれあい、遊ぶ貴重な体験ができた。SDGsの目標17のパートナーシップを結ぶための文化の理解、素地を作ることができた。日常の保育の中で、都度指導し、子どもたちと考えることで、物を大切にする気持ちや「もったいない」精神について理解し、実践しようとする姿が見られた。移動水族館・ふれあい動物園を通しての生き物とのふれあいは命のぬくもりを直に感じ、海や陸の生き物を大切にする姿勢と環境を守ろうとする気持ちが芽生えた。 ・ゴミの分別については、清掃局に依頼しての環境学習は実施できなかったが、ゴミを出さない(紙の無駄使いをしない。)、ゴミを分ける(給食や誕生会のヤクルトの容器と紙類)絵本や紙芝居を使い日常の保育の中で意識し、指導した。家庭でもゴミの分別する子どもたちの姿が見られた。
	9 効果検証総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 前年度まで実施のSDGsプログラム「ちきゅうフレンズ」により世界の抱えている問題を身近に感じた子どもたちが「せかいタッチ」というプログラムで、より深く世界の文化を知り、オンラインではあるが世界の子どもたちと交流することができた。SDGsの目標17のパートナーシップを築く上での素地、国際交流の意識を持つことが出来た。計画通りに活動が進まないこともあったが、これが日常生活の中でSDGsを意識した活動が出来ないかを考えるきっかけとなった。水を大切に使うこと、ものを大切に使うこと、ゴミをださないこと、食育とのつながりで食品ロスについて考えることが日常の保育を通して実践できた。家庭でも水を大切にする、ゴミを分別する姿が見られた。全園児が体験する移動水族館、ふれあい動物園も命を大切にする気持ちを養うとともに5歳児に対しては指導員のお話をお願いし、環境を守ることの大切さを考えることが出来た。リサイクル石鹸づくりは、リサイクルの意義を体感し、石鹸を大切に使う姿にもつながった。特別な行事を通してではなく、日常からSDGsの問題を意識し、考え、出来ることを実践する、日本だけでなく世界の文化と人々の暮らしを理解し、パートナーシップを築き、協力して問題解決にあたる。SDGsの精神にふれることが出来た。今後もこうした意識が子どもたちに根つき、実践に活かされるよう考えていきたい。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。